

# 国保和良診療所長 廣瀨医師が

## 「やぶ医者大賞」を受賞

人も診る、地域も診る、地域の名医に選出される

へき地医療に貢献した若手医師に贈られる「第5回やぶ医者大賞」に国保和良診療所長の廣瀨英生医師（41）が選ばれました。廣瀨医師は過去に表彰された医師の中で最も若く、今後ますますの活躍が期待されます。今回は、廣瀨医師の表彰に至った功績を紹介するとともに、これからの目標について伺いました。

### 今後の目標は

【廣瀨英生医師プロフィール】  
昭和52年3月生 岐阜市出身  
平成13年 自治医科大学卒業  
業後、下呂市小坂診療所、高山市久々野診療所などの勤務を経て、平成19年 国保和良病院（当時）に勤務、現在に至る  
趣味 ギター

廣瀨医師の当地における地域医療への貢献は大きく分けて2つ挙げられます。1つは地域に密着した地域包括ケアの実践であり、もう1つは地域医療のシステム作りと継続性への取り組みです。

### 地域包括ケアの実践

高齢になっても安心して暮らしていける地域社会づくりが地域包括ケアです。へき地に勤務する医師には幅広い能力が求められますが、廣瀨医師も外来診療、在宅医療を重視しつつ、特定健診、介護保険事業への支援、和良介護老人保健施設の運営など、へき地における保健、医療、福祉の一体的な推進に取り組み

てきました。こうした医療機

関内での活動だけでなく、地域全体の健康課題に対して、様々な資源と連携した和良全体の健康づくりに取り組まれています。和良地域は以前より健康づくりに積極的な地域であり、地域全体の健康計画として「まめなかな和良21プラン」を策定し推進してきました。廣瀨医師は、第一期計画途中から推進に携わり、10年目評価ならびに第二期計画策定において中心的な役割を果たされ、現在もその実践に地域住民とともに取り組んでいます。これは、市の健康福祉推進計画のモデルにもなりました。それ以外にも、地域住民を巻き込む活動として「地域医療を考える市民フォーラム」や、自治会との意見交換を行うために地域医療懇話会などを積極的に企画・開催するなど幅広く活動されています。

### 自治体を超えた連携体制

平成27年度からの取り組みである、郡上市、大野郡白川村、高山市荘川町のへき地診療所を包括する「県北西部地域医療セ

ンター」の開設は、「病院と複数診療所の相互連携による広域的に地域医療を支えるモデル」、「自治体を超えた連携により医療サービスを提供するモデル」として、へき地診療所を持つ全国の自治体から注目されています。廣瀨医師は、こうしたシステム作りで寄与されるとともに、開設後は副センター長兼和良診療所長として後藤忠雄センター長を支えてきました。加えて地域医療の継続性をめざし、数多くの医学生や研修医を受入れ、地域医療哲学を伝えるとともに、高校生を対象としたへき地医療研修会などの人材育成事業も積極的に企画・開催されています。



▲外来で問診する廣瀨医師



▲地域医療研修会を進行する廣瀨医師

（廣瀨医師）地域に医師、医療スタッフが不足しているといわれて久しいですが、私が活動してきた多職種連携、※ポピュレーションアプローチ、地域での教育や研究などの魅力を若手のみなさんに伝えることにより、少しでも地域医療への興味が増え、ともに働く仲間を増やしたいと考えています。医療現場での取り組みに加え、こうした活動をを通じてさらなる地域住民の健康福祉の増進に貢献していきたいと考えていますので、市民のみなさんのご理解とご協力をお願いいたします。

※ポピュレーションアプローチ  
患者だけでなく地域住民全員を対象とした取り組み

### やぶ医者大賞

地域医療に貢献する50歳以下の若手医師を顕彰するため、兵庫県養父市が2014年に創設されました。「やぶ医者」は本来「養父の名医」のことでしたが、大した腕もないのに「自分は養父医者の弟子だ」と語る医者が続出し、いつしか下手な医者を意味するようになったという説に由来します。若手医師の育成、医療過疎地域の医師確保及び地域医療の発展に寄与することを目的としています。

